

# 歌舞伎座 美空ひばり芸能生活十周年記念イベント



●別冊近代映画58年5月号より

## 深夜の顔合せ

歌舞伎座の前には「美空ひばり芸能生活十周年記念公演」の幟が春風にはためいていた。

昭和二七年四月二八、九日の二日間、歌舞伎座で第一回「美空ひばりの会」が開催された時から、早いもので、もう六年の歳月が流れている。再び歌舞伎座の桜舞台でリサイタルを開催したひばりちゃんのハリキリぶりは、一種、言いようもない程の激しいものだった。

京都で「かんざし小判」を撮り終わったのが二十日。翌二一日には東京に帰って来て、新宿東映のコケラ落して歌を歌った。

二二、二三、四、五日の連日、このリサイタルのための猛稽古が続けられた。それこそ不眠不休の猛稽古だったが、ひばりちゃんは如何にも楽しそうに、歌い、踊り、芝居をするのだった。

ひばりちゃんは何時にもこやかに笑っていた。一区切りつくたびに、ひばりちゃんは楽団の人や、裏方の

人たちにねぎらいの言葉をかけるのである。

『お疲れさま。ありがとうございます。した……』

自分一人のための十周年記念公演……そのために協力してくれる人には感謝の心を伝えねば気のすまぬひばりちゃんなのだ。

明日は初日という前の夜、十時半、歌舞伎座は菊五郎劇団の公演がやつと終わったのである。

第二部の「ひばりの雪・月・花」で、ひばりの相手役をする市川左団次、大川橋蔵の二人との手合せが、その夜はじめて行われた。

左団次はラクになった歌舞伎座に残った。橋蔵は京都から飛行機で駆けつけた。三人の顔合せが、深夜の歌舞伎座で行われたのである。

春とはいえ、東京の深夜はまだ寒い。それなのに、ひばりちゃんの頬はうっすらと紅らんでいる。ぶっ通しの稽古の後に初日の幕が上がった。

第一部はミュージカル・ファンタジー「ナポレオンのズボン吊り」三景である。

ナポレオンの後裔であることを無

